

## —新カリキュラム2年目の動向—

## Ⅱ 新カリキュラムでの各取り組みについて

### 1. 事前事後の指導

「事前事後の指導」は3学年の春学期に実施され、C類の附属特別支援学校での教育実習を行う学生が受講した。本学の3学年は必修授業及び副免許（中学校、高等学校各教科の免許）取得の授業等が非常に多い学年である。そのため、事前事後指導の一環である以下の取組を見直し、実施した。なお、実際の教育実習期間が終了した際に、学生にアンケート調査を行うことで各取組の評価を行った。

#### 1) 大学での講義

幼稚部、小学部、中学部、高等部の主事が4月下旬から5月下旬にかけて、大学に出向いて講義を担当した。内容は、幼児、児童、生徒の各ライフステージの実態やニーズ、指導内容や指導をする上での留意点などであった。また、教育実習主任も2回の講義を担当し、教育実習に臨む際の心得や指導案の書き方をレクチャーした。さらに、実習での出来事や子供の個人情報をSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）に書き込まないこと等、具体的な事例を挙げて紹介した。

#### 2) 観察実習

学生が、本校の雰囲気を含めた概要や各ライフステージにおける指導やその系統性について学習することを目的とし、実際に本校に来校し観察する実習を設定した。C類学生は、「春のレクリエーション大会」の当日、夕涼み会、の2日間を設定した。観察実習は基本的には2日間とも参加することとした。

学生は、大学での講義（各部主事の講話）と観察実習（春のレクリエーション大会）を通じて、本実習（教育実習期間）の希望配属学部を検討した。

表 1. 観察日について

	観察日の設定と参加日数
特別支援教育教員養成課程（C類）	春のレクリエーション大会、夕涼み会（原則2日とも参加）

学生の参加状況についてまとめると、24名中1名の学生が両日とも不参加、2名の学生が1日参加であったが、全体的に参加率は高かった。2回の観察実習で、「行事での子どもの様子を知ることができた。」「学部の雰囲気が伝わってきた。」等の意見や、「観察実習の際にどのような視点で観察するか分からなかった。」「どの程度幼児児童生徒たちと関わっていいのか分からなかった。」等の意見が出ていた。また、学生による観察実習に対する評価は、不参加の学生以外、全員「やや役立った」と「たいへん役立った」の2つの項目に集中していた。この結果を踏まえて、観察実習の在り方については今後も学生たちが有意義な実習となる内容や機会を設定する必要がある。

#### 3) プレ実習

プレ実習は、学生が実際に授業に参加することで、子供との関係づくりを行うことや実際の授業づくりに向けたイメージをもってもらうことを目的として設定した体験型の実習（事前実習）である。実習期間は、配属学部決定後から本実習開始前日までとした。図1を見て分かるように、新カリキュラムでのプレ実習期間は、10月初旬～2月中旬まで長期間設定している。前述した通り、必修授業が非常に多いため、期間を長く設定して、午前や午後みの参加、数時間の参加等、臨機に対応できるようにした。

今年度のC類学生による評価は「やや役立った」（7人）、「たいへん役立った」（16人）の項目に集中しており、本実習に向けての準備として役立てることができた。学生の意見としては、「子どもたちの実態を実習前に知ることができた。」「子どもたちや先生方と事前に関係を築くことができた。」等が挙げられ、プレ実習の目的が概ね達成されてきたことが分かった。しかしながら、「大学の授業の関係で参加できる曜日が決まってしまう、特定の授業しか見られなかった。」「研究授業のために、色々な授業を参観したかつ

た。」等の意見も出ていた。参加回数についても、0回～10回と昨年よりも差が見られ、1日を通して参加できた学生は数名程度であった。これらの結果を踏まえ、プレ実習について大学とより連携を図り、来年度以降、プレ実習期間の設定、参加の方法等を再検討する必要がある。

#### 4) ポスト実習

ポスト実習は、本実習で学生が学んだことを、次につなげる実践の場として、本実習後に設定している体験型の実習である。具体的には、本実習で把握した子供の実態を指導に生かすことやT T（ティーム・ティーチング）の経験を再度設定することを意図している。しかし、日程調整が難しく学生同士でT Tをする機会を設定できないといった課題や、教員の多忙により十分な振り返りの機会を設定できないといった課題が挙げられてきた。そこで、新カリキュラムでは、ポスト実習の機会を、次年度の春のレクリエーション大会（5月中旬）に設定（原則、全員参加）することとした。今年度、初めて4年生がポスト実習の一環として、1名の学生が不参加であったが、残りの学生は実習時に配属された学部で参加した。子どもたちの成長した姿を見ることができ、学生たちも有意義な時間を過ごせた様子であった。原則参加のポスト実習以外では、数名の学生が自主的にポスト実習に参加していた。しかしながら、7月の教員採用試験以降は、副免許（中学校、高等学校の各教科の教員免許）実習や卒業研究等があり、参加する学生はほとんどいなかった。選択実習の学生についても同様で、10月以降のポスト実習の参加はほとんどなく、2月に行われた学習発表会を観察しにきた学生が数名いた程度である。ポスト実習の在り方については、再度検討する必要がある。

## 2. 本実習（教育実習期間）

特別支援学校における教育実習（新カリキュラム）は、オリエンテーション（1日）の他にC類は2月に3週間、A類およびB類学生は9月に2週間という期間で設定されている。本実習では本校が独自に編集した「教育実習ガイドブック」（4年に1度改訂）が学生に配布されてきた。ここでは、実習に向けた心得から各学部にて特徴的な指導案の書き方までが記載されており、学生だけでなく指導教員も参考にできる内容となっている。

#### 1) 各講話

実習オリエンテーションの日と本実習期間の初日に各種の講話を設定した。校長や副校長による講話、養護教諭による学校保健講話、栄養教諭による学校給食講話、進路指導主事による進路指導講話、相談部によるコーディネーター講話を実施した。

#### 2) 師範授業および師範授業研究会（実施せず）

平成21年度より、自分たちが実際に行う研究授業や授業研究会を、学生が具体的なイメージをもつために、本実習の前半に本校教員による研究授業と模擬的な授業研究会を参観する機会を設定していた。しかし、2月は、どの学部も学習発表会に向けての学習が中心であるため、師範授業の設定が難しい状況である。今年度は師範授業および師範授業研究会を実施せず、授業研究会については、本校で作成している授業研究会についての映像を見せて、具体的な内容や実施方法を伝えることとした。

#### 3) 授業参加

本実習開始から数日間を指導教員の授業を観察、S Tとして様々な活動を補助する期間とした。

#### 4) 実地授業（略案授業）

実習2週目からは学生が指導略案を作成し、MTおよびS Tとして実際に授業を行い、指導教員と授業に関する振り返りを行うこととした。

#### 5) 研究授業（細案授業）および授業研究会（学部毎）

学生は実習で学んだことを活かし、指導案（細案）を作成し研究授業を1回行うこととした。研究授業は学部毎に実習生や教員が見合うこととし、それに基づいて授業研究会を行うこととした。

## 6) 教育実習反省会

実習最終日、各学部で実施した。学生からの実習を通じての感想、成果や課題が述べられた。

表2. 教育実習（本実習）指導計画（新カリキュラム）

週	日	始業～下校	放課後
	①	【オリエンテーション】 諸説明／大学連絡教員の話／副校長講話 授業観察	校長講話／学校保健講話／学校給食講話／ 進路指導講話／各学級打ち合わせ
1 週 目	②	諸説明／着任式 授業参加	コーディネーター講話 各学部顔合わせ／教材研究など
	③	授業参加	授業打ち合わせ／教材研究など
	④	授業参加	授業打ち合わせ／教材研究など
	⑤	授業参加（学校行事）	授業打ち合わせ／教材研究など
2 週 目	⑥	実地授業	授業打ち合わせ・反省／教材研究など
	⑦	実地授業	授業打ち合わせ・反省／教材研究など
	⑧	実地授業	授業打ち合わせ・反省／教材研究など
	⑨	実地授業	授業打ち合わせ・反省／教材研究など
3 週 目	⑩	実地授業	授業打ち合わせ・反省／教材研究など
	⑪	学部研究授業Ⅰ／実地授業	授業研究会Ⅰ（学部毎）／教材研究など
	⑫	学部研究授業Ⅱ／実地授業	授業研究会Ⅱ（学部毎）／教材研究など
	⑬	学部研究授業Ⅲ／実地授業	授業研究会Ⅲ（学部毎）／教材研究など
4 週 目	⑭	学部研究授業Ⅳ／実地授業	授業研究会Ⅳ（学部毎）／教材研究など
	⑮	学部研究授業Ⅴ／実地授業 離任式	授業研究会Ⅴ（学部毎） 教育実習反省会（学部毎） 事務連絡

## Ⅲ 今後に向けて

ここまで、昨年度より実施された新カリキュラムの教育実習について、2年間取り組んできた内容をまとめてきた。学生が主体的に配属希望学部を検討できる点に寄与してきた観察実習、学生が実際に配属学級に入り体験を通じて本実習に備えることができたプレ実習と、過去の教育実習の充実につながってきたと考えられる取り組みを継続することができた。一方、プレ実習とポスト実習については過去の課題や今後の実施状況を鑑みて、再度検討していく必要があるだろう。今年度は、1年間を通してポスト実習を行ったが、学生にとってポスト実習に参加する意義や必要性、魅力等が感じられず、参加する学生が非常に少なくなった。ポスト実習の在り方については、再度検討する必要がある。大学とも連携して、学校全体としてポスト実習の充実や機会の設定を図っていきたい。次年度は、今年度の反省点や改善点を踏まえて教育実習を実施したい。